FIWC

Friends International Work Camps
関西委員会

定例委員会報告　2001.1

参加者：入澤隆一、西村麻里、まや、柳川義雄、劉成道、須川浩和、福田きよ子、赤坂大輔、チャソンチョル、山口智子、アヨシン・ヂマ、青木麻理
中西章文、松本モト、佐藤里香、桜井洋身、以上16名　（2001年1月20日交流の家にて）

○中国キャンプ

16年前の韓国キャンプから語られ続けていた、「もう韓国の定着村での奉仕活動は必要性が薄れた。韓国でも日本でもない国に行ってキャンプをやりたい」という話がついに実現します。
日時:2月7日～21日
場所:広州より北へ30キロ、癩定着村、YangKeng村
内容:村では、かまどを使って料理を作っているため、煙や灰が充満しています。そのせいで、村人の多くは目に障害を抱えています。また、神経麻痺の為、薪をくべる際のやけどが酷くなっています。手足が不自由で料理が上手くできず、多くの村人は慢性的な栄養失調に陥っています。今回のキャンプでは、村の台所の改善を中心にワークを行います。
参加費:7万円
カンパのお願い:資材などの調達のため、カンパが必要です。趣意書を参照して下さい。

○年末キャンプ報告

2000年12月26日～30日に、のべ30人くらいが集まって行われました。交流の家の2階の壁の補修や屋根の修理の他、須加宮寮での奉仕活動、餅つき、菅原園での餅つきなどのワークがありました。夜には、ワークショップや総会など盛りだくさんのないようでした。

○2001年韓国キャンプについて

リーダーの藤山恭子を中心に、話し合いを進めています。新しいアイディアが沢山でてきていますよ。
次回は、1月27日（土）に大阪で話し合いを持ちます。みんなでキャンプを作りましょう。18時に梅田ビッグマンの上に大集合して下さい。また、2月20日ごろから藤山恭子と志賀純子が韓国へ下見に行ってきます。（藤山恭子）

○2000年韓国キャンプ文集

2000年韓国キャンプの文集を書きたい人は書いて下さい。（まや）

○付き添い募集

年末キャンプに参加していた、井庭涼子さんからのお願いです。菅原園で生活している障害者の方が、大阪観光をする時の付き添いをして下さる方を募集します。サークル単位でのボランティアが望ましいですが、もちろん個人でも結構です。（井庭涼子）

○交流の家にインターネットを！

メーリングリストなどを作成し、情報基地としての交流の家を模索していきたいです。（まや）

○キナム来日！

ジョナフェメンバーのハンキナム（96年）が2月8日～21日に日本に来ます。会いたい人は2月の定例会に来て下さい。（西村麻里）

○2000年度交流の家会計報告

12月の定例委員会報告から抜け落ちていました。
1999年12月から2000年11月までの会計報告です。

前年度繰越金	146,408円
収入	698,075円（カンパ、利用料等）
支出	530,402円（電気・水道・ガス・電話・クリーニング代・汲み取り等維持費）
残金	314,081円

毎月、基本使用料だけでも約4万円必要です。
交流の家は皆さんのカンパで運営されています。よろしくお願いします。（岸野、松本、福田）

○須川浩和からのお願い

FIWC関西委員会の資料をパソコンでまとめています。抑光会の資料が交流の家に保存されていません。資料をお持ちの方は須川までご一報ください。（須川浩和）

○青木麻理からのお願い

3月に大倭を離れる事になり、会計の交代をしたいと思います。どなたか引き継いでいただけますでしょうか。（青木麻理）

○FIWC関東委員会の委員長決定

西尾雄志さんが委員長になったそうです。よろしくお願いします。

次回の定例会は2月17日（土）19:00～

交流の家にて
2月定例委員会の担当は、西村麻里です。
今月の担当・文責は藤山恭子でした。

FIWC関西委員会　委員長　入澤隆一

FIWC関西委員会
631-0042 奈良市大倭町2-33 交流の家

※PDF版では、個人の電話番号などの連絡先を掲載しておりません。
お知りになりたい方は、下記までメールにてお問い合わせください。
PDF版制作：茂木 亮　mog@mognet.org

モグネット　http://www.mognet.org
ワークキャンプの情報あります

○2001年2月 中国キャンプ

趣 意 書

中国ライ定着村ワークキャンプの台所改修費用への募金のお願い

フレンズ国際労働キャンプ(FIWC)関西委員会
2001年1月20日

1984年のこと。私たちFIWC関西委員会は韓国のライ快復者定着村「相信農場」で道路舗装のワークキャンプを、韓国の忠南大学校のサークル助癩会(ジョナへ)と合同で行なっていました。私たちが韓国の定着村で73年にキャンプをはじめてから12年目、韓国の定着村も豊になってきていたころです。当時のジョナへの代表、ファンユンギュは、「今後、韓国内での仕事は少なくなっていくだろう。これからは、日韓合同で他のアジアの国へ応援に行こう。」と、夢を語りました。

以来15年、やっとその夢が実現します。日韓合同で中国のライ快復者の村でワークキャンプを行ないます。

私たちは韓国でキャンプを続ける中で、韓国の社会が「ライ」にどう対応したかを知り、そこから韓国社会を垣間見、さらに隔離の徹底というかなり行き過ぎた日本社会を見ることができました。また、新たに中国社会がライとどうかかわったかを知ることで、私たちは新しい視点を得ることになると思います。

今回訪れる村は、40名位が暮らしています。1950年代に治療のために作られ、既に平均年齢が65才です。住民の9割は目を患っており生活が不自由になっています。特に、台所は、従来のかまどで木をくべており、溢れる煙と灰は、目に悪い影響を与えていると現地の医師が報告しています。また、かまどでの調理のため、ライ特有の後遺症で感覚を失った手足に火傷を負うことも多く台所の改修が切望されています。今回のキャンプではこの台所の改修を行ないます。そのための資材購入費が、約50万円必要です。韓国のジョナへががんばって30万円位集めてくれました。私たちはあと20万円を作っていきたいと思います。皆さんのご協力をお願いします。

中国キャンプ日本側責任者 柳川義雄
フレンズ国際労働キャンプ(FIWC)関西委員会 委員長 入澤隆一
奈良市大倭町2−33 交流の家

募金目標額 20万円
募金使途 台所の改修費
村の所在地 中国広東省広州市(Guangzhou) Dongpu Town No. 5Dongpu Ave. ya yi ju.
C3-201 Ynagkeng村

振込先 郵便振替 00910-0-250615 FIWC関西委員会
振込用紙に「中国キャンプカンパ」と明記してください。

モグネット http://www.mognet.org ワークキャンプの情報あります